

令和6年度立川市長定例記者会見記録

日時・場所	令和6年5月29日(水)午後3時 ~ 3時50分	101 会議室
出席者	市側 酒井市長・近藤忠信副市長・小林健司副市長	
	クラブ側 読売新聞・朝日新聞・東京新聞・日本経済新聞・共同通信社・時事通信社・都政新報 合計7社	
司会進行	広報課長 五箇野	

【酒井市長】

本日は大変お忙しい中お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。
また皆様には平素立川市の情報を発信していただいておりますことを心から感謝申し上げます。今回は今年度に入りまして最初の定例記者会見となりますので、初めに、出席職員を紹介させていただきたいと存じます。

まず初めは4月1日付で就任をいたしました副市長の近藤忠信でございます。次に昨年度から引き続きの副市長の小林健司でございます。また本日、後方には総合政策部長等も控えておりますので、私の質問でご理解が及ばないところがございましたら、終了後に補足でご質問等をいただければと存じます。

さて令和6年第2回市議会定例会を6月4日に招集をいたしまして、議会運営委員会で報告をさせていただきました。

今定例会では、専決処分3件、条例5件など当初提出した議案は11件となっております。提出した議案一式につきましては、机上にこのような形でご配付をさせていただいておりますので、後ほどお目通しをいただければと存じます。

それでは私からは5点到って皆様方にお伝えさせていただきたいと存じます。

1点目は定時制通信制高等学校等合同学校相談会についてでございます。資料1およびこちらのチラシをご覧になっていただければと存じます。記載の通り、6月23日の10時より定時制通信制高校等合同学校相談会を本庁舎にて行わせていただきます。本市では不登校、ひきこもりなど、社会生活を円滑に営む上で様々な困難を抱える子ども若者の自立を支援するため「立川市子ども若者自立支援ネットワーク事業」を行っております。この事業の一環として年に2回でございますが、定時制通信制高校等合同学校

相談会を実施させていただいております。毎回多くの皆様方にご来場いただいております。昨年10月に開催をいたしました前回は260人の方々にご来場をいただきました。内容といたしましては、各学校の教員や生徒に気になることを直接質問できる他、学校の選び方や在校生・卒業生による座談会、教育費の補助制度など進路を検討する際に役立つ内容の講演会を予定いたしております。

今回は初めての取り組みといたしまして実際にこの合同説明会に参加をしていただいている参加校の高校生、実際に学校に通っている学生さんがボランティアとして運営に携わっていただくこととなります。実際に通っている学生を通じて学校の雰囲気を、来場者の皆さんに身近に感じていただける機会になればと考えております。

またボランティアとして携わっていただく高校生の皆さん方にも、さらに社会との繋がりを意識できる場になることを期待しているところでございます。

当市はなぜこういった事業を行うのかという社会的な背景を若干説明させていただきたいと存じます。皆さん方もご案内の通り全国的にも不登校の児童や生徒が多く存在しているということは、周知のことであろうと思います。教育委員会等に資料がございますけれども当市におきましては、令和4年度の数字でございますが、小学校においては2.29%のお子さんが不登校になっているという出現率。これは、全国的な数字では1.70%でございますのでこれよりも高い数字になっています。

また、中学校におきましては、当市におきましては令和4年に7.25%とこれも国の5.98%、あるいは東京都の5.73%を上回る出現率になっている。その中で子どもたちにとっては多様な学び場があっていいと私自身思っております。できるならば公立の学校に通っているお子さんは、その公立の学校の中で学びの機会を得られるような工夫をしていくことを第一義として考えます。けれども、何が何でも学校に戻すということではなくて、例えば特別支援教育、教育支援センター等もございますので、そういった立川市としての機関や、あるいはNPO法人の様々な取り組みの中で子どもたちが社会との繋がりというものをしっかりと保っていけるような、そういった方策を講じていきたいと思っております。

実際にこれは同じ年度で対比をいたしますと、令和4年度でございますけれども、立川市内において最終的に中学校を卒業するときに進学も、あるいは就職も決まっていないう状態の中で卒業していくお子さんたちが約1.1%、14名ということでした。令和5年度につきましては、これよりも低い数字で8人ということであったわけですが、実際にこの数字から見えてくることは公立の小学校あるいは中学校に不登校という形であったとしても、何かしらの社会的な結びつきを構築していく中で普通科の高校だけではなく、様々な学び場というものをそれぞれが探してそこと結びついて、進学に繋がっているということが言えると思います。そういった中で、立川市としては繰り返しに

なりますが、そのような子どもたちの、この高校という高等教育を受けるという場へ学びの機会にしっかりと繋げていきたい。そういった思いで本事業を行わせていただいております。ですので、皆様方にもこの合同学校相談会、6月23日日曜日10時から4時まで行っておりますので、ぜひ取材をしていただき、その場の雰囲気であるとか、あるいは実際にどういったお子さんたちがこの場所で学び場を探しているのかということに触れていただければと思っております。

また併せて、そのような状況の中でも、最終的に義務教育終了後に仕事にも、あるいは学校にも関わりを持たない状況にあるお子さんにも様々な事情があろうかと思えます。病気の治療中ということであったり、いろんな状況があると思えますけれども、そういった子どもたちにも少しでも寄り添っていけるような立川市を築いていくことが私の市長としての一つの目標であり責務であろうと思っておりますので、今後対策について前進させていきたいと考えております。

続きまして2点目でございます。2点目は立川シティハーフマラソン2024で日本デフ記録の樹立を達成したということについてでございます。資料の二つ目をご覧ください。いただければと存じます。去る3月10日に開催されました立川シティハーフマラソン2024の1マイルレースにおいて岡田美緒選手が5分49秒00というこの記録が日本デフ記録に認定されました。岡田選手は800m、そして1500mの日本デフ記録の保持者でございます。これで3種の日本デフ記録の保持者ということになります。このような記録が、立川市のシティハーフマラソンにおいて、私にとっては初めてスターターを務めさせていただいたこの大会で記録を樹立していただいたということは大変嬉しくそして頼もしく感じております。

岡田選手におかれましては、今年の7月に台湾で開催をされる世界デフ陸上選手権の800mへの出場が内定しているということであり、日本記録の樹立と世界大会出場の報告のために明後日の5月31日金曜日午前10時に市役所にお越しいただくことになっております。皆様方におかれましてもぜひ取材にお越しをいただければと思っております。

続きまして3点目はくるりんおよびウドラをデザインした白衣の作成についてでございます。資料3をご覧ください。皆さんから見て右手、なんだこれはというふうに思われているかもしれませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で、栄養士による給食訪問ができない期間が大変長く続いてまいりました。令和6年度、本年度より給食訪問を本格的に再開するにあたり、立川市のキャラクターでございますくるりんをデザインした白衣を作成いたしました。手作りです。また立川市の学校給食では、立川名産であるうどを使用した料理が提供されておりますので、今回は株式会社壽屋様にもご協力いただきウドラをデザインした白衣も作成をさせていただきました。学校給食にお

きましては毎年 12 月から 3 月の間に年四、五回給食でうどを使用した料理を提供しています。昔は、うどんせんべいとかうどん饅頭とか色々とうど推しで立川市も企画を練っておりましたけれども、今給食で提供しているものとしては、うどんラーメン、うどん牛丼、うどんグラタン、うどんきんぴら、ウドちゃんこ汁などを提供しているということでございます。ちなみに私のおすすめは農家の方に聞いたんですけど、うどの肉巻き、アスパラ肉巻きと同じように、真ん中にウドを入れてバラ肉とかで巻いて食べるととっても美味しいということを農家の方に聞きましたので、実際に自宅で作ってみました。大変美味しく食すことができます。うどんといえば酢味噌かと思っておりましたけれどもいろんな食べ方がございますのでぜひとも、うどんにもご注目をいただければというふうに思います。皆さん向かって右側がその白衣となります、実際にここで着てみようかなと実は思っていて、袖を入れてみたんですが、サイズがちょっと私の体の作りが大きくて、入らなくなりましたので私の着用はなしということで、マネキンに着せております。

この白衣は何なんだというふうに多分ツッコミが入るかなと思いますので、もう少し詳しくご説明をさせていただきます。実際に栄養士の皆さんが給食訪問や食育事業で学校へ出向く際に着用するとともに、調理場の社会科見学の際にも着用をしているということでございます。既に栄養士の皆さんが着用して学校訪問していますが、多くの児童が集まってかわいいというふうにね、人気があり話にも集中して耳を傾けていただけるという効果を狙ったものでございます。当市のキャラクターでございますくるりと公式キャラクターにちょっと届かなかったウドラこの 2 本立てで子どもたちに注目してもらいながら、食育にも繋げていきたいと考えている次第でございます。

次に、4 点目でございます立川市史の資料編写真集についてでございます。

後ほど皆様方の記者クラブに閲覧用で配付をさせていただきたいと思いますが、立川市史新編ですね資料編として砂川の民俗というものこれは文字がたくさん書いてあります。もう一つあわせて写真集を、この度発行をさせていただきました。明治時代から現在に至る立川市の町並みの変化や発展の様子を 1 冊の写真集としてまとめたものでございます。この中から何点か写真を紹介させていただきたいと存じますので、モニターをご覧になっていただければと思います。たくさん写真がある中で、私の記憶にある場面をチョイスさせていただきました。まずはこれ、私がまだ子どもの頃のこういう立川の飛行場です。今の立川の市役所が多分こちら辺ですかね、以前の立川市は、こういった状況でございました。ちょうどこの辺りにヘリポートがございまして今ファール地区と言われているあたりでございます。私が子どもの頃はちょうどこの絵ではまだ駅ビルができる前の写真で駅前に高島屋があったり、第 1 デパートがあって、今のタクロスの位置ですけどもちょうどこういう緑川の通りで、この辺にダイエーがあったりと、当時私の小学生ぐらいのときの思い出では、今シネマシティがあったりあるいは洋服の青山さんがあるその辺りに映画館が並んでいたんですけども、そのすぐ裏側は

ヘリポートということで駅の周辺にいてもこのローター音が大変響いているという、そういう時代です。私の人生 56 年でございますけれども、約 50 年弱前にはこういった立川の街並みでございました。

この立川駅も、今は駅前ルミネがございますけれどもこのような懐かしい券売機これ立川駅の北口の写真でございます。

これ 2 番線って書いてありますけど、右側が 1 番線で、青梅線の 1 番線ホームと 2 番線ホームで奥多摩駅行の電車が止まっていたという記憶が残っています。

これなんか地下道があったんですね。今は橋上駅という形になっておりますけれども、昔は地下道で結ばれていたということです。

これは南口の駅前ですね。今ではグランデュオができたり、あるいはホテルメッツがあつたりということで駅前広場も広がっておりますけれどもこういった雰囲気でした。

私の小学生ぐらいの時期だったと思うんです。中学生ですかね。今のルミネが、ウィルという名の駅ビルが誕生したという記念の写真であります。

これは今高架化がされておりますけど私の自宅のすぐ近くで曙町 3 丁目と羽衣町の町境でこの手前側に日本自動車学校という今トヨタドライビングスクールがあるところで野沢踏切だと思いますけれども、当時はこのような踏切であったと。ここによく昔の言葉で言います「やっちゃば」と言いましたけど、青果市場がこの東京多摩青果というところがあったという懐かしい写真でございます。

先ほどお話した映画館があったというところですけども立川セントラルだとかね。とんかつ屋さんもあったんだなというところが、これが今のシネマシティあるいは高島屋がある前がこのような雰囲気でのすぐ裏にヘリポートがあったという時代のものです。

これが私が市議会議員に初当選をした 30 年前に通っていた立川市役所の第 1 庁舎この手前に議会棟があったという写真でございます。少しピックアップしてこの他にも、何点にもわたる写真等がございますけれども、私の子どもの頃の思い出に残っているところから私の市議会議員として立川市政に少し関わりを持った時代までの写真を紹介させていただきました。このように立川市は 1940 年 12 月 1 日に市政施行をいたしまして今年でちょうど 84 年となりますけれどもこの長い歴史を紡いで参りました立川市市政施行の前の段階からの立川市の移り変わりがよくわかる興味深い資料になっております。ぜひとも後ほど、あの記者クラブの方にも閲覧用として 1 冊ではございますけれども、配置をさせていただきますのでご覧になっていただければと思っております。

続きまして 5 点目についてでございます。これにつきましては立川電子図書館に対しまして株式会社立飛ホールディングス様から支援をいただいたということでございます。

これは皆様方に記者会見等でご案内をしておりますけれども、本市では3月12日から能登半島地震の被災地支援の一環として、石川県輪島市の小中学生に対して立川電子図書館の電子図書閲覧サービスを提供いたしております。この度、立飛ホールディングス様より電子図書の追加支援をいただきましたのでご紹介をさせていただきたく存じます。追加されるコンテンツといたしましては読み放題パック、4パック157点でもう既に5月1日より提供が始まっておりまして既に立川市および輪島市の子どもたちが読める状況に状態になっております。なお立飛ホールディングス様からは、通常の立川電子図書館の運営にも年間約150万円の支援をいただいているところでございますが、今回約101万7000円の追加でご負担をいただきまして、コンテンツを充実させることができました。

なお参考でございますけれども本市の能登半島地震の被災地支援に関しましては、この電子図書館を開放するという以外に、東京都等を通じた職員派遣も合わせながら11名の職員を派遣いたしてまいりました。また義援金としましては、3月7日入金分までで195万7000余円を義援金としてご協力をいただいております。

今ご紹介いたしました電子図書館の輪島市の利用状況についてでございますが、3月12日から4月30日までの段階でログイン数は736回という数字が上がっているところでございます。対象者が確か2400人ちょっとであったと思いますけれども、その中で大体3分の1弱の方たちがご覧になっていただいているということで一定のご協力はできているのではないかなというふうに思っております。

最後に、記者の皆さん方にぜひご注目をいただきたい情報のお知らせをさせていただきますと思います。本年7月27日土曜日に立川まつり国営昭和記念公園花火大会の開催が決定したことは、既にお知らせをさせていただいたところでございますが、当日の有料観覧席につきましては、7月1日に発売開始の現段階での予定でございます。詳細が決まりましたら改めてプレスリリースをさせていただきますので、周知方ご協力をいただければと存じます。

また次に立川市をホームタウンとするプロフットサルチームの立川アスレティックFCの今シーズン初戦が6月1日土曜日にアリーナ立川立飛で行われます。先日開催されたオーシャンカップでは3位決定戦で惜しくも4位という結果になりましたけれども、先日選手兼代表の皆本選手とお話した際には、今シーズンは優勝を目指して頑張るとおっしゃっておいりましたので熱い戦いを期待いたしております。当日は私も応援に駆けつけたいと思っております。

また続いてGENKOTSU立川立飛大会、これも皆様方にチラシを配布させていただいていると思いますが、GENKOTSU立川立飛大会が6月9日日曜日に、アリーナ立川立飛で

開催されます。この大会には立川市内にジムを構える石川ボクシングジムから3名のボクサーの方々が出場を予定されております。今回の大会の目玉はWBOアジアパシフィック女子バンタム級タイトルマッチで石川ボクシングジムの菊地真琴選手が挑戦者として出場を予定いたしております。こちらの大会へも応援に行こうと考えております。私からの説明は以上でございます。

今回お伝えをいたしましたことはもちろん、その他の話題につきましても本市に関することを一つでも多く報道機関の皆様方に取り上げていただくことで、多くの方が立川に関心を寄せていただき、ひいては立川に愛着を感じていただく契機としていきたいと考えております。今後とも積極的な情報発信に努めてまいりますので、ぜひともよろしくお願いをいたしたいと思っております。

おそらく皆様の中には今日発表したこと以外にご関心をお持ちになっている方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは今発表させていただいた内容につきましてご質問等がありましたらお受けをした後に、またその他の事項で皆様方からのご質問にお答えをさせていただきたいと思っております。

私からは以上でございます。

【朝日新聞 西田記者】

説明の合った定時制通信制高校等学校相談会について伺いたい。1点目は、在校生の方がいらっしゃるということなんですけれども、不登校であったり引きこもりであったりの経験者の方なのですか。

【酒井市長】

実際にどのような学生さんがいらっしゃるのかについては、現在先方と調整中でございますので、今日の段階でどういう状況にあってこの学校に行かれたかというところについては、本市としてはそのことを確認するつもりも元々ありませんでした。やはりいろんな思い、センシティブな話でございますので積極的にその学校に通っている、そういったお子さんの自主性を尊重して、過去のことについてあれこれと掘り起こすということはあまり適切ではないのではないかなと思っております。それは取材の中で、もしご本人が自分の過去をお伝えいただけるのであれば、それはそれでここに参加をしている、聞きに来る子どもにとっては有意義なのではないかなということでご理解いただければと思います。

【朝日新聞 西田記者】

会見の中でご紹介いただいたデータのことで、国だったり都の平均的な出現率に比べ

立川市は少し多いという点に関してどうして多いとお考えか。

【酒井市長】

私も市長になって8ヶ月余が経過をしたばかりでございますので、その内容原因というところがどこにあるのかというところについてはこの場でこれだということに明確にお答えすることが叶いません。

多分理由についてはいろいろと後ほど資料見ていただければわかると思うんですけども、家庭の事情であるとか、様々な事情が絡み合ってますね、そのデータ上はいろんなそれぞれのご事情があろうかと思えます。それが他の地域と比べて少し出現率として高いという傾向については、これはあくまでも結果としてそういう数字を捉えた上で、その数字をしっかりと私は踏まえた上で将来的にこの数字を減らしていける方向に進めていければいいなと思っております。先ほどもお話をした通り、この数字が悪いからという一面性だけを取って、学校に何が何でも引き戻すことが正解なのかということについては私自身、それだけではないだろうと仮にこの7. 何%中学生でというところもありましたけれども今お伝えをいたしました高校という学びの場、高等教育を受ける場にうまく繋いで行かれているというお子さんもいらっしゃいますので、そういった様々な学びの場、社会との関係性をしっかりと繋ぐ場を提供していくということが必要であろうと思えますし、また、だからと言って学校がどうしてもいいという話ではなくて、学校自身がやはり子どもたちにとって健康で、そして気持ちよく学校に通っていただけるような対応をこれは教育委員会がメインとなりますけれども、市としても連携して取り組んでいきたいと思っております。その実現率がなぜ高いのかというところについてははっきりした理由は、現状では立川市としてはなかなかこれだと明言することには至っていないという状況でございます。

【朝日新聞 西田記者】

最後に、不登校は全国的な課題だと思うが、今回のこのネットワーク事業の他に今後何か不登校児童を減らす方策を考えているのか。

【酒井市長】

一つには立川市が直接絡めるという部分で、やはり学校に通われている子が不登校にまずはならないようにどういうふうに先生たちと連携をしていくのか、教育委員会の方で取り組んでいく必要がまずは大前提であると思えます。その次の段階においては立川市においては小学生・中学生向けにそれぞれ教育支援センターというものを小学校は、柏小学校、そして中学生については錦学習館に設置をいたしておりますけれども、その学習支援センター等とにかく子どもたちが通いやすい環境を構築していくのかという面では、そのなかでの対応の仕方もありますけれども、施設等における問題は、市長部

局が設置者でございますので、そのあたりについては少し工夫をしていきたいと思っております。それが直接すぐに効果が現れるかどうかわかりませんが、私も市長に就任をしてからなるべく地域のいろいろな場所を事前のアポイントなしで訪れるようにしております。そういった中で、この二つの教育支援センターについては市長就任後にふらっと訪れて、その場で子どもたちの印象であるとか、あるいはそこで教育にあたっていただいている先生たちの話をお伺いしました。今教育委員会の方で対応して改善をされているんですけども、これは別に隠す必要がないので、正直にお話を申し上げますが、中学生の特別支援学校の「たまがわ」というところがございます。なかを見てもうカーテンがビリビリなんです。先生に聞いたところ周りの人からは、お化け屋敷のようだと言われているんです。市長さん何とかしてくれないかということで、教育委員会にお話をしたカーテンぐらいはせめてきれいにしてほしいと早速対応していただきました。私自身先ほど教育の内容面と施設面というお話を申し上げましたけれども、一つ考えているのは、やはり学校、市内の公立学校だけではありませんけれども、そういった学校に通えなくなってしまった。だけれども教育支援センターには通うことを考えている。そういった子どもたちの学習の機会について、これを華美にする必要はないと思っております。でも、こざれいにした方がいいと思っております、やはりある意味いろんな思いを持って学校に通えなくなってしまった子どもたちがその学びの場を求めているところを探している。その中で立川市が直接運営をしている部分について、やはりそこに過剰にお金をかける必要は、これはバランスがありますから無いとは思いますが、通常の学校と比べて明らかに汚いとか、あるいは明らかに自分たちは大切に思われていないというふうに子どもたちが感じてしまうような状況というのは私は改善をしたいと思っております。

やはり立川市の子どもたちは学校に通えている子も通えていない子も私を初めとした市の職員や立川の大人たちはあなたたちのことをちゃんと大切に思っているんだよということを、言葉で使えなくても肌で感じてもらえるようなメッセージを私は伝えていきたいと思っております。そういった意味で一例ではございますけれども、立川市において直接的に不登校になってる子どもたちの支援をしている場所については、1日も早く少し傷んだところはこざれいにしていきたいと思っております。ただ私達でできることは限られてると思います。市内では様々なNPO法人や、あるいはまた別の学びの場もございます。例えば昨年暮れに実施をしました夜のユースセンターという形でNPO法人さんをガバメントクラウドファンディングで支援をしたということもございますけれども、あの手この手を考えながら子どもたちの居場所づくり、学びの機会の創出、また社会との繋がりを途絶えさせないという取り組みを一つずつ行っていきたいというふうに思っております。

大変長くなりますちょっと思いのあるところでしたので、雑駁なお答えになってしまったかもしれませんが、ご了承いただければと思います。

以降その他の質問

【読売新聞 水戸部記者】

昨日、区市町村長の首長の方々がお名前を出されて、小池都知事へ出馬の要請をされたとのことですが、その中で酒井さんはお名前が入ってなかったと思うのですが、そういったことが行われたことに対する所感とそういったことを含めて都知事選について思うところがあればお願いします。

【酒井市長】

私も都議会議員をしておりましたので、都知事選挙に関しては、少なからず関心は持っております。ただまだ、現職の知事は出馬表明をされて、されたんですかね今日1時から多分本会議が行われていると思うんですけども、ちょっと現段階では把握をしておりませんので、出馬表明を所信表明でされたのか否かは、すみませんわかりませんが、いろいろな方が出てきて、やはり論戦を繰り広げることによって、最終的に都民の皆さんがご判断をすることですのでその都民の判断によって選ばれた知事が、都民の利益にかなうような政策論議を行いその結果として選ばれることが一番望ましい。あえて言うならば、広く都民なんですけれども、私達それぞれ自治体を預かる者としては、自治体が市政運営を行うにあたって東京都の支援が必要な場面もあろうかと思えます。そういった場面においては、この間例えば018サポートが突然ダウンと出るとか、そういったことがないように市町村、市区町村との事前の連携等も図っていただけるようなそういった状況になることが望ましいというふうに思っております。今回のこの要請についての感想ですけども、政治の世界ですからいろいろとありますわなというふうに思っておりますが、一言で私が多分後で聞かれると思しますので先に言ってしまいますと、なぜ名前を連ねなかったのかと言いますとそこに「り」がないから乗らなかったということですね。この「り」というのは、まず「理屈がない」、「利益もない」が故に、賛同者に名を連ねることについては、ご遠慮申し上げたということです。以上です。

【読売新聞 水戸部記者】

理屈がないというところですけども、首長の方々が、名前を出して要請するっていうところの理屈、今回そういうことが行われたわけですけど、どうして理屈がないのか解説していただきたい。

【酒井市長】

現段階において市長会においてこのような行動をされる前に小池現知事が出馬表明

されてないじゃないですか。本来であれば出馬表明をされた後にこれこれこういう政策を持って私は引き続き都政を担っていくんだというお話があった上で、では各市長さん、有志で構いませんから応援をしていただけませんか、ご賛同いただけませんか、という話であれば、理屈はありますよね。ですけれども今回のことと言えばそれぞれの市長さんがどういう思いでそこに賛同をされてるのかそれは各市長さんにお聞きをいただければと思いますけれども私の感覚からいえば、結果として報道にあるように出馬要請をしたと捉えられてしまうことについて、立川の市長として現職の知事に対して出馬要請をする必要性がないということで、理屈がないというふうに考えた次第であります。

【東京新聞 岡本記者】

今の必要性がないということについてですけど、これは小池都知事のこれまでの8年間に対する評価というものを踏まえた上でのそういう見解か。

【酒井市長】

小池知事云々という話ではないです。はっきり申し上げまして、要はまだ出馬表明もされていない方に対して、こちらからお願いをして出てくださいという必要が私のこれまでの政治的なポリシーであったり、あるいは政治家としての考え方の中でそういった考え方には至らないという話でございまして、これは他の候補に対しても同じスタンスであります。

実際にそれぞれの候補が出馬表明をされた中で、東京都政に対して思うところ、あるいは市区町村との連携について思うところをそれぞれ述べていただいた中で、もし私自身がこちらの方の方がいいなとぜひ当選してほしいなというふうに思う場面があれば、それは何かの行動を起こすかもしれませんけれども、基本的には私は議会の中でも右も左も市長になった以上はないということをお話申し上げておりますので、現時点で特定の私の立場を表明する必要はないのでご遠慮をするという形で、私におきましては早々にしかも多くの市長さんがいる前で、私は賛同いたしかねるということをはっきりと明言をさせていただいた次第です。

【東京新聞 岡本記者】

もう一点、都知事選を巡っては、以前の酒井さんが所属されていた立憲民主党から蓮舫さんが出馬の意向を示している。蓮舫さんをめぐっては今の話だと、具体的な政策を聞いてからということなのかもしれませんけれども、これまでの蓮舫さんという人物に対する評価も含めてどんなことを期待されているのか。

【酒井市長】

期待をするところという点では、蓮舫氏だけに期待をしているということではなくて、

ある意味一強と目されていた都知事選挙が俄然都民にとっては選択肢が生まれたという部分においては蓮舂さんよくぞ立っていただきました。ということで期待をしておりますけれども、蓮舂さんの個人的な問題に対して私はあまり論評をするつもりは現在のところありません。あの皆様方ご存知の通り過去私は当時民進党でしたかね離党した経緯がございます。その後立憲民主党というところでもう一度同じ党籍を持つ形になりましたけれども、そのときの私の発言等覚えていらっしゃる方がいらっしゃればその通りでございます。ただ月日は流れておりますので私は過去のしがらみに何かとられるというそういったことはあまり考えておりませんので、率直に今後出馬表明はされましたけれども、まだ政策はこれからというふうに記者会見でおっしゃっていたと思います。これにつきまして具体的に東京をどうしていきたいのかという部分について何かしらの発信がなければ私としては論評する立場にはない。ということでしかないと思ってます。

【都政新報 山下記者】

先ほど他の市長さんの前で賛同しかねるとおっしゃったということですが、その時の反応ですとか、どうだったのか。なんかちょっと紛糾したというような話も聞いている。

【酒井市長】

市長会の中での議論というのは、あまり私から公にすべきではないと思いますけれども、多々ご議論はありました。皆さんいろいろとお考えもあろうかと思えます。今回それぞれの立場を取られた首長さんにおいてもいろんな葛藤が当然そこにはあったものと推察をいたしますが、私自身はいろいろと確認をさせていただくことも確認をさせていただいた上で、先ほどお話を申し上げた通り、「り」がないと思ったので私の性格上、いろいろと議論をしたのに自分の考えを後でこそっとお伝えをするということはあまり潔しとしないタイプですので、はっきりとその場で私は賛同いたしかねる。と言ったということで、多少のその場の雰囲気は終わった後にある首長さんからは、酒井さんよくあんなにはっきりと言えますね。というふうには言われました。はいそういう性格なのでとお答えをしたということです。

他はよろしいでしょうか。

ではいろいろと想定通りの、多分、前段のお話よりも後段のお話の方が皆さん時期的にご関心があるのかなと思っておりましてけれども、私の趣旨をお伝えする機会を持って私としても大変ありがたく思っております。

ですが、最後の方のお話だけを印象に残してお帰りになるのではなくて、ぜひとも前

段の立川市としての公式のお話の方を特に幹事社の朝日新聞さんにはご質問いただきましたけれども、立川市もこういった社会問題にしっかりと対応していきたいということで子どもたちの学びの機会を広げていくという趣旨でのイベントを行ってまいりますので、ぜひその部分について記事に載せていただくとありがたいなと。それ以外のものについても、可能な限り皆様方のお力をお借りして広く市民の皆さんに広報をしていただくと大変ありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

(終了)